

第1回波瀬川における避難のあり方検討会 議事要旨

委員	意見	説明内容
友岡委員 (一志団地自治会)	<ul style="list-style-type: none"> ・近年避難勧告が頻発しているが、避難する人が少ないのは事実。 ・避難指示が出ても自分の目で波瀬川の水位を見て判断をしている。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に洪水で堤防が決壊しているが、経験した人は堤防の強度等を非常に心配している。 	●波瀬川左岸2.0K上流については10～40mピッチで堤防高の測量を実施し、状況を詳細に確認。 【資料-3にて説明】
	<ul style="list-style-type: none"> ・津市の避難勧告マニュアル(H21)では避難勧告前に「避難準備情報」を出すことになっているが、過去に1度も出ていない。 	●「避難準備情報」については、原則的には発令するが、波瀬川(下川原橋観測所)のようにはん濫注意水位と避難判断水位との差が10cm程度しかない河川については、状況を見て発令することとなる。 (参考)はん濫注意水位(2.20m)、避難判断水位(2.30m)
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告を出す明確な判断基準と、避難勧告を出す地区について見直しを欲しい 	●勧告を出す判断基準については、見直しを行う予定はないが、対象地区については、今回の検討会を踏まえ、見直しを検討。 【資料-3にて説明】
田端委員 (一志総合支所長)	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の避難の参考となるよう、堤防整備状況だけでなく、将来的な見直しを教えて欲しい。 	●波瀬川左岸2.0K上流については10～40mピッチで堤防高の測量を実施し、状況を詳細に確認。 【資料-3にて説明】
馬場委員 (一志方面団長)	<ul style="list-style-type: none"> ・いままでの経験で言うと、高野の小渕病院の下から来る水が多い(内水氾濫) 	●現地確認:【別紙参照】
	<ul style="list-style-type: none"> ・波瀬川左岸3.6K付近が開発されて、地形が変わり、これまで以上に氾濫が広がる可能性が高くなる点も考慮し避難方法を検討してほしい。 	●現地確認:【別紙参照】
葛葉座長 (三重大学) 川口委員 (三重大学)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告に対する住民の理解も必要であるため、勧告のあり方は様々な考え方を含めて検討が必要。 ・住民が理解しないのは得心してないからであり、得心するために何が必要かを考えること。 	—
	<ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告の判断基準及びエリアの考え方について説明してほしい。 	●津市避難勧告等の判断・伝達マニュアルに基づいて決定しているが、エリアについては、今回の検討会を踏まえ、見直しを検討。 【資料-3にて説明】
酒井委員 (津市危機管理部長)	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の発信だけでなく、避難所及び要員の確保について見直ししており、次回説明する。 	●避難準備情報の段階から避難所要員の職員を配備するなど、迅速な避難所開設に向けた取組みを進めている。
筒井委員 (三重河川副所長)	<ul style="list-style-type: none"> ・波瀬川の堤防は概ね計画に対する高さは確保されている。水位上昇の要因の一つとして川の断面の少なさが挙げられ、計画高水位の変更は橋や堰との関係がある点が難しい。 	●波瀬川左岸2.0K上流については10～40mピッチで堤防高の測量を実施し、状況を詳細に確認。 ●危険箇所・水位について波瀬川の特性を踏まえ再検討を実施。 【資料-3にて説明】
	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ起きてもおかしくない出水に対しては、河川整備と並行して情報発信等のソフト対策の検討が必要。 	●波瀬川の洪水時の特性を踏まえ、地域住民が分かり易く情報を知るための手法を検討中 【資料-3にて説明】

持続型洪水(越水+破堤)発生時の最大浸水区域図(100年に1回発生する確率規模の洪水)

別紙

